

市民と議会との意見交換会を開催

10月23日から29日までの5日間、市内5地域で延べ10回の「市民と議会との意見交換会」を開催し、62名の皆さまに参加いただきました。

意見交換会では『未来の下呂市を議員と一緒に考えましょう』を主テーマとして、参加いただいた皆さまから多くの意見や提言をいただきました。寄せられた意見などは、調査研究するため各常任委員会に引き継ぐものと、市執行部に必要な対応を求めるなど議会として対応しています。今後も市民の皆さまの貴重な声を市政に生かすため、議会として取り組んでいきます。

寄せられた意見などの一部を紹介させていただきます。

★公共交通について

＊路線バス運行の撤退など公共交通の取り組みについて丁寧な情報提供を。

＊高齢者にとって利便性の高い公共交通網の構築と、高齢者の安全運転を支援する取り組みの推進を。

★インフラ整備について

＊国道41号の事故や雨量規制による通行止めを回避する迂回路を。

＊交流人口増加に向け、交通アクセスの改善が大切。リニア開通ま

でに濃飛横断自動車道の整備を。
＊馬瀬地域の国道257号の早期改良と荘川ICへの接続を。

★防災・減災について

＊障がいがあることで、避難をする時、援助してもらえないか不安。
＊岩屋ダムの緊急放流をしなくても回避することができるとの対策を。
＊停電の原因となる倒木のおそれがある木の伐採と、道路にはみ出した通行障害となる枝の除去を。
＊昨年の災害により河川に堆積した土砂の除去を。

★人口減少・少子高齢化・子育てについて

＊就労人口が減少する中、移住・定住と少子高齢化対策に係る積極的な取り組みを。
＊子どもを安心して遊ばせることが出来る広場や公園の整備を。



金山市民会館(10月29日)の意見交換会

★第一次産業について

＊農地(田・畑・茶園)の維持保全のための支援を。
＊若い世代へ米作りを伝えるなど農業、林業への支援を。

★その他

＊旧下呂温泉病院跡地の活用は。
＊益田清風高校への支援を。

★議会との意見交換会について

＊市民の意見を十分聞いて政策に取り込んでほしい。
＊議員と話す機会が少ないため、意見交換会が必要。

＊1人の発言時間を決め、多くの意見を聞いてほしい。

＊校下ごとや人口割合を考慮した開催を。

＊市民の参加が少ないので、各地域1回の開催で良いのでは。

★議員報酬などについて

＊若い議員を増やすため、議員のなり手不足の解消のために引き上げても良いのでは。

＊財政赤字が心配、災害対応にも費用がかかるので今は引き上げるべきではない。

＊議員個々の活動を支援するため、政務活動費は必要ではないか。

◎寄せられたご意見や提言は、下呂市ホームページに掲載しています。

市長に要請書を提出

各地域の意見交換会でいただいた意見や提言のうち、特に下呂市が直面する喫緊の課題を2項目にまとめ、市長に要請書として提出しました。

★高齢化社会に対応した公共交通

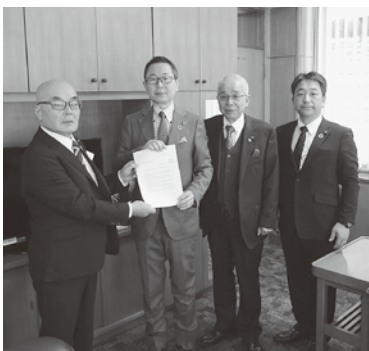
＊高齢者をはじめとする交通弱者に配慮した利便性の高い公共交通網の構築を。

＊高齢運転者が少しでも長い間、安全運転が続けられるための支援を。

★想定外の災害への対策

＊自助と共助を基本とした家庭や地域での取り組みに有用なさまざまな情報の提供を。

＊全ての地区で共助の取り組みとして災害時に必要な方に適切な支援と配慮がされるよう、積極的な働きかけと助言を。



市長に要請書を提出する議長

市外視察

総務教育民生常任委員会

〔11月12日～13日〕

◆視察先 愛知県蒲郡市

◆目的

蒲郡市が取り組む地元温泉旅館を利用した保健指導について、調査し政策提言への参考とする。

◆内容

平成23年度の特定健診結果で、メタボ該当割合が県内1位、保健指導終了率も県内最低の結果を受け、健康づくりが市の重点施策となった。商工会や医師会などの関係機関と協議を重ね、生活習慣病が疑われる方を対象とした地元温泉旅館に1泊する新たな保健指導プログラムの実施を開始した。対象者に継続的な支援を行うことで、メタボ該当者の減少につながり、また関係機関の横断的な取り組みが成果を生み出したものと言える。

◆視察先 三重県いなべ市

◆目的

いなべ市が取り組む元気づくりシステム推進事業を調査し、政策提言への参考とする。

◆内容

厚生労働省の「市町村介護予防

強化推進事業」のモデル指定を受け、行政主導で始められた「元気づくりシステム推進事業」は後に健康・福祉・医療の連携による一般社団法人元気クラブいなべが中心となり、住民主体で実施がされている。通所と訪問の介護予防サービスを6カ月体験した元気なお年寄りが、地域のふれあいの場で介護予防の指導者として活躍している。この他に「介護予防把握事業」では、70歳以上の方に健康自立度チェック票を毎年送付し、その回収率は91%である。未提出者には「お達者訪問事業」として各家庭を訪問することで、介護予防対象者の早期発見につながっている。担当者からは「元気づくりシステムを全国に普及できれば」との思いも述べられ、下呂市でも検討する必要性を感じた。



いなべ市長寿福祉課から説明を受ける

産業経済常任委員会

〔11月5日～6日〕

◆視察先 速水林業（三重県紀北町）

◆目的

FSC森林認証制度を活用し先進的な森林経営を行っている速水林業を調査し、政策提言への参考とする。

◆内容

森林認証とは独立した第三者機関が、森林管理を公表された基準に照らし合わせて評価・認証していく制度で、速水林業は国内最初の平成12年2月にFSC（森林管理協議会）の認証を取得している。FSC認証により、約1000ヘクタールある自社山林を適切に管理し、認証した木材やさまざまな木材製品などを広く消費者に流通させ、森林保全に向け取り組みを行っている。下呂市においても、FSCの認証などを取り入れた森林整備を進めることができないか調査していく。

◆視察先 三重県志摩市

◆目的

志摩市の取り組みSDGs（P8参照）を活用したまちづくりを調査し、政策提言への参考とする。

◆内容

志摩市は人口減少や高齢化に危機感を持ち、地元企業や団体などと共に、国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を平成30年6月から実施している。17の目標のうち「海の豊かさを守る」の活動としてフグの放流や漁業者と市民が連携して藻場の再生活動を実施している。また「陸の豊かさを守ろう」など地域に合った目標を掲げて活動している。下呂市の事業や取り組みを次の世代に引き継いで行くために、SDGsを活用したまちづくりができないか、研究を進めていく。



志摩市SDGs未来都市推進室から説明を受ける